

岩手における防災・伝承活動から学ぶ

— 多様な伝承活動の可能性と課題 —

日時：2025年6月8日（日）10:00-12:20

場所：マリオス | 盛岡地域交流センター 18階 188会議室
（岩手県盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号）

参加費：無料（申込不要、学会会員でない方も参加可能です）

シンポジスト 地域防災学の立場・岩手県の復興施策に関わった立場から

齋藤徳美 氏（岩手大学名誉教授）

シンポジスト 釜石市で伝承活動に取り組む立場から

川崎杏樹 氏（うのすまい・トモス いのちをつなぐ未来館）

シンポジスト 陸前高田市で伝承活動に取り組む立場から

浅沼ミキ子 氏（陸前高田「ハナミズキのみち」の会）

コメンテーター 子ども社会、子ども文化、学校教育と災害伝承の視点から

加藤理 氏（文教大学教育学部教授）

司会・趣旨説明：若林陽子（岩手県立大学社会福祉学部講師）

未来へ祈る
PRAY FOR THE FUTURE

【趣旨】

東日本大震災の発生から14年が経った。震災の影響を強く受けた子どもたちは成人し、現在の子どものなかでは、震災当時や直後の記憶がおぼろげとなっていることも少なくない。子どもたちに対してどのように大震災の過去を意味づけ伝えてゆくべきかという問題は、ますます重要になっている。

大震災に関する伝承や学びは、社会の多様な場面で展開する。世代を超えて文化を継承し創造する学校という場には普遍的な役割があるだろう。そして、絵本などの出版や語り部の活動、東北各地の震災に関する伝承館、街のシンボルなどさまざまなものが、災害と共存する人々の生活を自らの手で意味づけ形成し、生活の知識や思想を伝承するメディアである。

本シンポジウムでは、このような伝承の方法の多様性を映し出す、岩手県で活動する方々が登壇する。「子ども社会」のもつ問題に対して理論的のみならず実践的・臨床的に探究する本学会が、震災の伝承について議論することのできるひとつの重要な場になることを願う。

シンポジスト紹介



齋藤 徳美（さいとう とくみ）

岩手大学名誉教授（工学博士）
秋田市出身、80才

専門は地下計測学、地域防災学。「岩手県東日本大震災津波復興委員会・総合企画専門委員会」委員長として岩手県の津波復興計画の立案と進捗管理にあたる。岩手山噴火危機に際しての防災体制の構築、岩手県風水害対策支援チームの立ち上げをけん引。各自治体での防災士の育成研修の講師を務める。著書に「岩手・減災 近年の足跡」「地域防災・減災 自治体の役割」など多数。

防災功労で2016年防災担当大臣、2017年内閣総理大臣表彰。2024年岩手県県勢功労賞、岩手日報社文化賞受賞。

川崎 杏樹（かわさき あき）

株式会社かまいしDMC
地域創生事業部 鶴住居トモス運営課 いのちをつなぐ未来館

釜石東中学校2年生の時に東日本大震災を経験。海の近くの学校から約1.6キロ離れた高台に避難し助かる。

地元の高校を卒業後、都留文科大学に進学し4年間釜石市を離れる。大学卒業後に釜石市にUターン。

2020年4月に株式会社かまいしDMCに入社し、いのちをつなぐ未来館にて伝承活動を行っている。施設の案内を担当するほか、自身の体験をもとにしたプログラムを作成し提供している。

浅沼 ミキ子（あさぬま みきこ）

陸前高田「ハナミズキのみち」の会代表

大船渡市赤崎町生まれ、陸前高田市在住。2006-2018年陸前高田市観光物産協会勤務。その間、2011年東日本大震災発生。長男(当時25歳)を亡くす。

亡き人達の思いを語り継ぐため、2013年、金の星社より絵本「ハナミズキのみち」を出版。同年、避難誘導する道を明示し、未来へ伝える陸前高田「ハナミズキのみち」の会を立ち上げ代表となる。

2019年春、避難路「シンボルロード」延伸開通の際、会にてモニュメント建立。秋、ハナミズキを植樹。シンボルロードを管理しながら伝承活動を行っている。

